

安全データシート

作成日： 2023 年 01 月 13 日
最終改訂日： 2026 年 01 月 06 日

1. 製品及び会社情報

化学品等の名称： ATTBLIME ABX
製品コード： ATTBLIME ABX
供給者の会社名： 株式会社原製作所
住所： 長野県上田市保野 2 4 8 - 7
電話番号： 0268-38-3520
ファックス番号： 0268-38-3843
電子メールアドレス： scan@hara-sss.co.jp
緊急連絡電話番号： 0268-38-3520
推奨用途： 3D スキャナでデジタル化する際、反射面・黒モノ・透明なオブジェクトの表面に映り込む光や周囲の像を、一時的に消すためのつや消しのスプレー塗布剤の用途。
使用上の制限： 3D スキャナ用のつや消し塗布剤以外の用途は想定していないので、他の用途には使用しないで下さい。
国内製造事業者等の情報： ドイツ製

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類】

物理化学的危険性

エアゾール

区分 1

健康に関する有害性

眼に対する重篤な損傷／眼刺激性

区分 2

発がん性

区分 1 A

生殖毒性

区分 2

特定標的臓器／全身毒性（単回ばく露）

区分 2（肝臓）

特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露）

区分 3（麻酔作用、気道刺激性）

特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露）

区分 1（中枢神経系）

特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露）

区分 2（肝臓）

誤えん有害性

区分 1

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）

区分 2

注） 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の 11 項に、「分類対象外」、「区分に該当しない」「区分外」または「分類できない」の記述がある。

【GHS ラベル要素】



【注意喚起語】 危険

- H222 極めて可燃性/引火性の高いエアゾール
- H229 高圧容器：熱すると破裂のおそれ
- H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
- H320 眼刺激
- H335 呼吸器への刺激のおそれ（気道刺激性）
- H336 眠気又はめまいのおそれ（麻酔作用）
- H350 発がんのおそれ
- H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- H371 臓器の障害のおそれ（肝臓）

- H372 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（中枢神経系）
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（肝臓）
H401 水生生物に毒性

【注意書き】

安全対策

- P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P210 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
P211 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
P251 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264 取扱い後は、触れた部分を水又は微温湯を流しながら石鹸を使ってよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

- P301+P310 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用
していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
P314 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
P331 無理に吐かせないこと
P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

保管

- P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P405 施錠して保管すること。
P410+ P412 日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。

廃棄

- P501 内容物/容器を「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に則って廃棄すること。

GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の危険有害性：情報なし


重要な徴候及び想定される非常事態の概要：情報なし

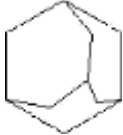
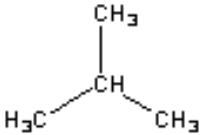
3. 組成及び成分情報

化学物質/混合物の区別：混合物

化学名又は一般名：ATTBLIME ABX

慣用名又は別名：塗布剤スプレー

一般名	ブタン	プロパン	シクロペンタン
濃度又は濃度範囲	25～50%	10～25%	10～25%
分子式（分子量）	C ₄ H ₁₀ (58. 12)	C ₃ H ₈ (44. 11)	C ₅ H ₁₀ (70. 13)
化学特性 (示性式又は構造式)	$\text{H}^3\text{C}-\text{CH}^3-\text{CH}^3-\text{CH}^3$	$\text{H}_3\text{C}-\text{CH}_2-\text{CH}_3$	
CAS 登録番号 (CAS RN)	106-97-8	74-98-6	287-92-3
官報公示整理番号			
(化審法)	2-4	2-3	3-4166
(安衛法)	公表	公表	3-(3)-25
GHS 分類に寄与する成分 (不純物及び安定化添加物も含む)	なし	なし	なし

一般名	エタノール	アダマンタン	イソブタン
濃度又は濃度範囲	2.5～10%	2.5～10%	<2.5%
分子式（分子量）	C ₂ H ₆ O (46.07)	C ₁₀ H ₁₆ (136.23)	C ₄ H ₁₀ (58.12)
化学特性 (示性式又は構造式)	CH ₃ —CH ₂ —OH		
CAS 登録番号 (CAS RN)	64-17-5	281-23-2	75-28-5
官報公示整理番号			
(化審法)	2-202	4-655	2-4
(安衛法)	公表	公表	公表
GHS 分類に寄与する成分 (不純物及び安定化添加物も含む)	なし	なし	なし

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・ 使用中に気分が悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、速やかに通気の良い場所で安静にすること。気分が回復しない場合は医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・ 皮膚を速やかに洗浄すること。
- ・ 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- ・ 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合：

- ・ 目を擦らず直ちに清浄な水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗浄を続けること。
- ・ 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

- ・ 口をすすぐこと。気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：

- ・ 吸入：頭痛、吐き気、嘔吐、麻酔作用（し眠、昏睡、めまい、意識喪失、脱力感）。
- ・ 皮膚：発赤。 眼：発赤、痛み。
- ・ 経口摂取：腹痛、めまい、し眠、吐き気、咽頭痛、嘔吐、意識喪失。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項：

- ・ 区域内に入る前に酸素濃度を測定する。
- ・ 火気に注意する。有機溶剤用の防毒マスクが有ればそれを着用する。

医師に対する特別な注意事項：対症療法的に治療する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤

大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤：棒状注水

火災時の特有の危険有害性：

- ・ 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。
- ・ 気体/空気の混合気体は、爆発性である。
- ・ 加熱により容器が爆発するおそれがある。
- ・ 火災によって刺激性、又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法：

- ・ 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。

- ・ 引火点が極めて低い：散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。
- ・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- ・ 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
- ・ 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置：

- ・ 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置：

- ・ 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・ 関係者以外の立入りを禁止する。
- ・ 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
- ・ 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
- ・ 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
- ・ 風上に留まる。低地から離れる。
- ・ 密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項：

- ・ 周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：

- ・ ガスが拡散するまでその場所を隔離する。
- ・ すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
- ・ 液体に向けて水を噴射してはならない。
- ・ 圧力容器が漏出しているときは、気体が液状で漏れるのを防ぐため、洩れ口を上にする。
- ・ 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。
- ・ 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
- ・ 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
- ・ 蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止策：

- ・ 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- ・ すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

【技術的対策】

- ・ 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

【安全取扱注意事項】

- ・ すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- ・ 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
- ・ 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
- ・ 漏洩すると、発火、爆発する危険性がある。
- ・ 接触、吸入又は飲み込まないこと。
- ・ ガスを吸入しないこと。
- ・ 目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付けること。
- ・ 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること

【接触回避】：「10. 安全性及び反応性」を参照。

【衛生対策】：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。

保管：

安全な保管条件：

- ・ 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。
- ・ 冷所、換気の良い場所で保管すること。
- ・ 酸化剤から離して保管する。
- ・ 容器は直射日光や火気を避けること。

- ・ 錠して保管すること。
- 安全な容器包装材料：
- ・ 高圧ガス保安法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等：

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
ブタン	未設定	500 ppm、1200 mg/m ³ (2022 年)	TLV-STEL : 1,000 ppm、 2,370 mg/m ³ (2019 年)
プロパン	未設定	未設定 (2005 年)	TLV-TWA 1,000ppm (2005 年)
シクロペンタン	未設定	未設定 (2014 年)	TLV-TWA (600 ppm) TLV-STEL (- ppm) (2014 年)
エタノール	未設定	未設定	TLV-STEL 1,000ppm (2009 年)
イソブタン	未設定	500 ppm、1200 mg/m ³ (2022 年)	TLV-STEL 250 ppm (2023 年)

設備対策：

- ・ 製造者が指定する防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
- ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・ この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・ 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。
- ・ 高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具：

- ・ 呼吸用保護具：必要に応じ、送気マスク、空気呼吸器、酸素呼吸器を使用する。
- ・ 手の保護具：手袋の材質は、製品/物質/調剤に対して不浸透性で耐性がなければならない。適切な手袋の選定は、材質だけでなく、さらなる品質基準にも左右され、製造業者によって異なります。
製品は複数の物質の混合物であるため、手袋素材の耐性は事前に把握することができず、使用前に確認する必要がある
- ・ 目、顔面の保護具：
 - 1) 適切な眼の保護具を着用すること。
 - 2) 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
- ・ 皮膚及び身体の保護具：
 - 1) 不浸透性の保護衣、顔面シールドなど、適切な保護具を着用すること。
 - 2) 安全靴、耐火服。

特別な注意事項：情報なし

9. 物理的及び化学的性質：

物理的状态	エアゾール
色	白
臭い	特徴的
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	-44.5°C (CAS: 74-98-6、プロパン) 20°C
可燃性	可燃性 非常に可燃性の高いエアゾール。 加圧容器：加熱すると破裂する恐れがある。
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	下限；1.5 Vol % (CAS: 106-97-8 ブタン (0.1%以下を含む)) 上限；10.9 Vol % (CAS: 74-98-6、プロパン) 20°C
引火点	-97°C (CAS: 67-63-0 プロパン-2-オール)
自然発火点	データなし

分解温度	363°C (CAS:64-17-5 エタノール)
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度：	水に混和する。
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	8,300hPa (CAS: 74-98-6、プロパン) 20°C
密度及び/又は相対密度	0.698 g/cm ³
相対ガス密度 (空気=1)	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ (放射性、かさ密度、燃焼持続性)	情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性：	通常の取扱いでは安定である。
化学的安定性：	適切な条件下においては安定である。
危険有害反応可能性：	エタノール； 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発の危険をもたらす。硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件：	高温
混触危険物質：	エタノール； 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニア、硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤
危険有害な分解生成物：	二酸化炭素、一酸化炭素

11. 有害性情報

危険有害性項目	分類結果	分類根拠
急性毒性 (経口)	区分に該当しない	3成分が、GHSの定義におけるガスであり、ガイダンスの分類対象外に相当し、区分に該当しない。 2成分は液体で、区分に該当しない。1成分は固体で、区分に該当しない。 依って、混合物は区分に該当しないとした。
急性毒性 (経皮)	分類できない	3成分が、GHSの定義におけるガスであり、ガイダンスの分類対象外に相当し、区分に該当しない。 1成分は液体で、区分に該当しない。2成分は液体と固体で、データ不足のため分類できない。依って、混合物は分類できないとした。
急性毒性 (吸入：気体)	区分に該当しない	3成分が、GHSの定義におけるガスであるが、区分に該当しない。 2成分は液体で、他の1成分は固体で、ガイダンスの分類対象外に相当し、区分に該当しない。依って、混合物は区分に該当しないとした。
急性毒性 (吸入：蒸気)	分類できない	3成分はGHSの定義におけるガスであり、ガイダンスの分類対象外に相当し、区分に該当しない。 2成分は液体で、区分に該当しないとデータ不足のため分類できないである。 1成分は固体で、データ不足のため分類できない。 依って、混合物は、データ不足のため分類できないとした。
急性毒性 (吸入：粉じん、ミスト)	分類できない	3成分はGHSの定義におけるガスであり、ガイダンスの分類対象外に相当し、区分に該当しない。 2成分は液体で、1成分は固体で、共にデータ不足のため分類できない。 依って、混合物はデータ不足のため分類できないとした。
皮膚腐食性／刺激性	分類できない	5成分は、区分に該当しない。1成分は固体で、データ不足のため分類できない。 依って、混合物は、データ不足のため分類できないとした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2B	3成分は区分2Bで、その成分濃度が15～45%(>10%)であることから、混合物は区分2Bとした。 他の成分は、区分に該当しない、もしくは分類できないである。 シクロペンタン(10～25%)；区分2B、ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405相当) の報告が2件ある。一方の試験では、適用後に洗浄をおこなった試験で、

		適用1時間後に結膜の赤色化がみられた (6/6匹) が適用72時間後に回復した (SIDS (2010))。もう一方の試験 (非洗浄) では、結膜の赤色化がみられ (6/6匹)、虹彩炎及び結膜浮腫 (1/6匹) がみられたが、適用4日後に回復した (SIDS (2010))。エタノール (2.5~10%) ; 区分2B、ウサギを用いた2つのDraize試験 (OECD TG 405) において、中等度の刺激性と評価されている (SIDS (2005))。このうち、1つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第1日の平均スコアが角膜混濁で1以上、結膜発赤で2以上であり、かつほとんどの所見が7日以内に回復した (ECETOC TR 48 (2) (1998)) アダマンタン (2.5~10%) ; 区分2B、ウサギの眼を軽度刺激する。
呼吸器感受性	分類できない	全6成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。依って、混合物は分類できないとした。
皮膚感受性	分類できない	全6成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。依って、混合物は分類できないとした。
生殖細胞変異原性	分類できない	全6成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。依って、混合物は分類できないとした。
発がん性	区分1A	1成分は区分1Aで、その成分濃度は2.5~10%(>0.1%) であることから、混合物は区分1Aとした。 他の5成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。 エタノール (25~50%) ; 区分1A、エタノールはACGIHでA3に分類されている (ACGIH (7th, 2012))。また、IARC (2010) では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされている。
生殖毒性	区分2	1成分は区分1Aで、その成分濃度は2.5~10%(>0.3%) であることから、混合物は区分1Aとした。 他の5成分は、データなしまたはデータ不足のため分類できない。 エタノール (25~50%) ; 区分1A。ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる (PATTY (6th, 2012))。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるため、区分1Aとした。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、動物実験でも妊娠ラットに経口投与した試験で奇形の発生がみられている。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分2 (肝臓) 区分3 (麻酔作用、気道刺激性)	5成分は、区分3 (麻酔作用) で、その成分濃度は>90% (≥20%) であることから、混合物は区分3 (麻酔作用) とした。 2成分は、区分3 (気道刺激性) で、その成分濃度は12.5~35% (≥20%) であることから、混合物は区分3 (気道刺激性) とした。 1成分は区分1 (循環器系) で、その成分濃度が<2.5% (<10%) であることから、区分2 (循環器系) とした。 混合物は、各成分の分類結果および含有量から、区分2 (循環器系)、区分3 (気道刺激性、麻酔作用) となった。 ブタン (25~50%) ; 区分3 (麻酔作用) プロパン (10~25%) ; 区分3 (麻酔作用) シクロペンタン (10~25%) ; 区分3 (気道刺激性、麻酔作用) エタノール (2.5~10%) ; 区分3 (気道刺激性、麻酔作用) アダマンタン (2.5~10%) ; データ不足のため分類できない。 イソブタン (<2.5%) ; 区分1 (循環器系)、区分3 (麻酔作用)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分1 (中枢神経系) 区分2 (肝臓)	1成分は区分1 (中枢神経系) で、その成分濃度が25~50% (≥10%) であることから、混合物は区分1 (中枢神経系) とした。 また、他の1成分は区分1 (肝臓) 区分2 (中枢神経系) で、その成分濃度が2.5~10% (<10%) であることから、混合物は区分2 (肝臓) とした。 ブタン (25~50%) ; 区分1 (中枢神経系)、(1) ライター用交換缶のブタンガスを4週間乱用した15歳の少女で重篤な脳の障害が生じ、入院加療後に神経性合併症を発症した。MRI検査の結果、灰白質の崩壊や脳の萎縮等がみられた (PATTY (6th, 2012))。(2) ブタンガスを乱用した青年男女で幻覚、幻聴等の神経症状が発症したとの複数の報告がある (PATTY (6th, 2012))。(3) ブタンガスを繰り返し吸入した12人のほとんどで、多幸感及び幻覚がみられた (DFGOT vol. 20 (2003))。 エタノール (2.5~10%) ; 区分1 (肝臓)、区分2 (中枢神経系)。ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与え

		る標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する (DFGOT vol. 12 (1999)) との記載に基づき区分 1 (肝臓) とした。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国 FDA は 3 種類の治療薬を承認しているとの記述がある (HSDB (Access on June 2013)) ことから、区分 2 (中枢神経系) とした。
誤えん有害性	分類できない	3 成分は区分に該当しない。1 成分は分類できない。1 成分は区分 1 で、その成分濃度は 10~25% (>10%) であることから、混合物は区分 1 とした。 シクロペンタン (10~25%) ; 炭化水素であり、動粘性率が 0.59 mm ² /sec. (20°C、CERI 計算値) であるため、区分 1 とした。

1 2. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期 (急性)	1 成分は区分 3 で、その成分濃度は 10~25% (<25%) であることから、区分に該当しない。他の 1 成分は区分 1 で、その成分濃度は 2.5~10% (<25%) であることから、混合物は区分 2 とした。 アダマンタン (2.5~10%) ; 魚類 (ファットヘッドミノー) LC50:Pimephales promelas 0.261 - 0.312 mg/L 96 h
水生環境有害性 長期 (慢性)	1 成分は区分 3 で、その成分濃度は 10~25% (<25%) であることから、混合物は分類できないとした。他の 5 成分は区分に該当しないまたはデータ不足のため分類できないである。
残留性・分解性	データなし。 アダマンタン (2.5~10%) ; 15% (by BOD), 0% (by GC) 好気性-曝露時間 28d、結果: 15 % - 易分解性ではない。
生体蓄積性	データなし。 アダマンタン (2.5~10%) ; 1130~2980 (conc. 10ug/L), 1970 (conc. 1ug/L) Cyprinus carpio (コイ)-60d で 20°C (Adamantane)、生物濃縮因子 (BCF) : >1,500 (MITI 試験)
土壤中の移動性	データなし。
オゾン層への有害性	各物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3. 廃棄上の注意; 環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報:

残余廃棄物:

- 1) 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
- 2) 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- 3) 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- 4) 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。
- 5) 焼却: アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。
- 6) 活性汚泥処理: 低濃度の排水は活性汚泥処理装置で処理する。

汚染容器及び包装:

- 1) 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
- 2) 空容器に関する警告 (該当する場合): 空容器には残留物が含まれていることがあり、危険である可能性がある。正しい指示を得ないで、容器の再充填またはクリーニングをしてはいけない。
- 3) 容器に加圧、切断、溶接、ろう付け、はんだ付け、穴開け、研磨操作を加えたり、容器を熱、火災、スパーク、静電気、または他の発火源にさらしてはいけない。容器は爆発し、傷害や死亡事故を引き起こすことがある。

1 4. 輸送上の注意

国際規制:

- ・ 国連番号: 1950
- ・ 品 名: AEROSOLS (maximum 1 litre)
- ・ 国連分類: CLASS 2.1
- ・ 容器等級: エアゾール製品は容器等級が定められていない。
- ・ 海洋汚染物質 (該当・非該当): 非該当
- ・ MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質: 非該当
- ・ 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策: 貨物用輸送機に限る。

国内規制がある場合の規制情報

- ・ 高圧ガス保安法に基づき、輸送を行う。車両には警戒標「高圧ガス」を掲げる。

- ・ 消防法の危険物と混載しないこと。 その他関係法令の定めるところに従う。
- ・ 容器に漏れ、破損の無いことを確かめ、転倒、落下、破損が発生しないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- ・ 長時間の高温、直射日光を避ける。

急時応急措置指針番号： 1 2 6

1 5. 適用法令

消防法；プロパン	・ 危険物の規制に関する政令第 1 条の 10 (届出を要する物質の指定)；液化石油ガス 300kg (高圧ガス保安法、ガス事業法、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律に基づく施設において貯蔵又は取扱う場合を除く)
エタノール	・ 第 4 類引火性液体、アルコール類
シクロペンタン	・ 第 4 類 第一石油類 危険等級Ⅱ 非水溶性
労働安全衛生法； ブタン プロパン イソブタン	・ 危険物・可燃性のガス（施行令別表第 1 第 5 号）；ブタン、イソブタン ・ 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 1 号、第 2 号別表第 9）【4 8 2 ブタン】 ・ 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 5 7 条の 2、施行令第 1 8 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9）【4 8 2 ブタン】 ・ リスクアセスメントを実施すべき危険有害物（法第 57 条の 3）
エタノール シクロペンタン	・ 危険物・引火性の物 ・ 名称等を表示すべき危険有害物（法第 57 条、施行令第 18 条別表第 9） ・ 名称等を通知すべき危険有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9） ・ リスクアセスメントを実施すべき危険有害物（法第 57 条の 3）
化学物質排出把握管理促進法	該当しない
毒劇法	該当しない
道路法	車両の通行の制限（施行令第 1 9 条の 1 3、（独）日本高速道路保有・債務返済機構 公示第 1 2 号・別表第 2）；ブタン、プロパン、イソブタン
高圧ガス保安法	液化ガス（法第 2 条 3）【液化ガス】 可燃性ガス（一般高圧ガス保安規則第 2 条 1）；ブタン、プロパン、イソブタン
危険物船舶運送及び貯蔵規則	引火性液体類 (危規則第 3 条危険物告示別表第 1)；エタノール、シクロペンタン
航空法	高圧ガス (施行規則第 1 9 4 条危険物告示別表第 1)；ブタン、プロパン、イソブタン 引火性液体；エタノール、シクロペンタン
海洋汚染防止法	有害液体物質（Z 類物質）（施行令別表第 1）；エタノール 有害液体物質（Y 類物質）（施行令別表第 1）；シクロペンタン
船舶安全法	高圧ガス（危規則第 3 条危険物告示別表第 1）；ブタン、プロパン、イソブタン 引火性液体類；エタノール、シクロペンタン
港則法	その他の危険物・高圧ガス（法第 2 1 条第 2 項、規則第 1 2 条、危険物の種類を定める告示別表）；ブタン、プロパン、イソブタン、 第 4 類引火性液体、アルコール類；エタノール、シクロペンタン

1 6. その他

「参考文献」

- 1) Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
- 2) Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN IMDG Code, 2020 Edition (Incorporating Amendment 40-20)
- 3) RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
- 4) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH (2000)
- 5) International Chemical Safety Cards (ICSC)
- 6) Hazardous Substances Data Bank (HSDB)
- 7) GESTIS Substance database (GESTIS)
- 8) 2022 TLVs and BEIs. (ACGIH)
- 9) JIS Z 7252 : 2019、JIS Z 7253 : 2019

-
- 10) 2021 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会）
 - 11) 製品評価技術基盤機構 (NITE) ; GHS 分類対象物質データ、初期リスク評価書、有害性評価書
 - 12) 国際化学物質安全性カード (ICSC) 日本語版 化学工業日報社 (1992)
 - 13) ERG 2016 版 緊急時応急措置指針－容器イエローカードへの適用
 - 14) 中央労働災害防止協会 GHS モデル SDS 情報
 - 15) 有機合成化学辞典（社）有機合成化学協会 講談社サイエンティフィック

責任の限定について

この安全データシートは、世界調和システム（GHS）に従って作成されています。本 SDS に記載された情報は、発行日現在における当社の知識、情報、確信の範囲内で正確なものです。記載された情報は、安全な取り扱い、使用、加工、保管、輸送、廃棄、放出のためのガイダンスとしてのみ設計されており、保証または品質仕様とみなされるものではありません。本情報は、指定された特定の材料にのみ関連するものであり、本文中で指定されていない限り、他の材料と組み合わせて使用される材料や、いかなる工程で使用される材料に対しても有効であるとは限りません。本書には特定の危険性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険性であることを保証するものではありません。
